

研究・産業分野用検査キット

※※2013年 9 月改訂（第 4 版）
※2008年11月改訂（第 3 版）

品 番 **50300**

Api® 50 CH（アピ® 50 CH）

アピ 50 CHは、被検菌の炭水化物代謝を試験するためのキットで、マイクロチューブに50の炭水化物及びその誘導体が含まれており、嫌気培養部分（チューブ）では発酵試験が、好気培養部分（カップ）では酸化試験及び同化試験が行われます。

■形状・構造等（キットの構成）

- 1．包装内容
- 1）アピ 50 CHプレート …………… 10枚

2）培養容器 …………… 10組

3）成績記入用紙 …………… 10枚

4）説明書 …………… 1 部
- 2．本品を使用の際に必要な器具及び試薬
- 1）菌液接種用培地

①アピ 50 CHB/CHEメディウム（品番50430、バシラス属／腸内細菌用）

②アピ 50 CHL培地（品番50410、乳酸桿菌用）

2）ミネラルオイル（品番70100）

3）アピピペット（品番70250）

4）滅菌綿棒（品番70610）

5）マクファーランド標準液（品番70900）

6）デンシマット（品番99234）

7）試験管立て（品番70200）

8）アピウェブ（品番40011）

3．アピ 50 CHの基質の成分

プレート0－9 マイクロチューブNo./基質	プレート10－19 マイクロチューブNo./基質	プレート20－29 マイクロチューブNo./基質	プレート30－39 マイクロチューブNo./基質	プレート40－49 マイクロチューブNo./基質
0 ConTRoL	10 D GALactose	20 Methyl- α D- Mannopyranoside	30 D MELibiose	40 D TURanose
1 GLYcerol	11 D GLUcose	21 Methyl- α D- Glucopyranoside	31 D Suucose	41 D LYXose
2 ERYthritol	12 D FRUctose	22 N Acetyl Glucosamine	32 D TREhalose	42 D TAGatose
3 D ARAbinose	13 D MaNNosE	23 AMYgdalin	33 INUlin	43 D FUCose
4 L ARAbinose	14 L SorBosE	24 ARButin	34 D MeLeZitose	44 L FUCose
5 D RiBose	15 L RHAmnose	25 ESCulin ferric citrate	35 D RAFFinose	45 D ARabitoL
6 D XYLose	16 DULcitol	26 SALicin	36 Starch	46 L ARabitoL
7 L XYLose	17 INOsitol	27 D CELlobiose	37 GLYcoGen	47 GlucoNaTe
8 D ADOnitol	18 D MANnitol	28 D MALtose	38 XyLiToI	48 2 Keto Gluconate
9 Methyl- β D- Xylopyranoside	19 D SORbitol	29 D LACtose	39 GENTiobiose	49 5 Keto Gluconate

■用法・用量（操作方法）

- アピ 50 CHB/CHEメディウム又はアピ 50 CHL培地の説明書も参照して下さい。
- 1．菌液の調製
- 1）試験する微生物の生育に適した培地で被検菌を培養して下さい。純培養であることを確認して下さい。

2）培地上の菌を滅菌綿棒を用いて釣菌して下さい。液体培地の場合は遠心分離で集菌して下さい。

3）適切な菌液接種用培地（アピ 50 CHB/CHEメディウム、アピ 50 CHL培地等）を用いて菌液を調製して下さい。
- 2．プレートの準備
- 本品は 5 枚のプレートで構成されており、 0－49の番号を付記したマイクロチューブがセットしてあります。

1）培養容器（トレイと蓋）を準備して下さい。

2）トレイの端に検体番号を記入して下さい。

3）トレイに約10mLの水を入れて下さい。

4）プレートをパッケージから取り出し、 1 枚ずつ切り離して 5 枚のプレート（0－49）を培養容器に入れて下さい。
- 3．菌液の接種
- 菌液を滅菌ピペットで50のマイクロチューブに分注して下さい。

1）培養容器をわずかに前方に傾け、チューブ部分との境のカップの端にピペットのチップをつけるようにして注入して下さい。

2）チューブにのみ菌液を接種する場合、嫌気状態にするために菌液がチューブの上端よりも上にならないようにして下さい。

3）チューブ及びカップに菌液を接種するとき、菌液の液面が凹面状又は凸面状にならないように注意して下さい。

- 4）プレート用カバーをして下さい。
- 5）被検菌が増殖する至適温度30、37又は55℃で培養して下さい。

4．成績の読み取り

1）カップ及びチューブで同化、酸化及び発酵を判定することができます。

①基質が炭素源であるカップ部分の被検菌の発育により同化の判定を行います。

②カップ部分の色の変化で酸化の判定を行います。これは好気状態での酸産生によるpHの変化によるものです。

③チューブ部分の色の変化で発酵の判定を行います。これは嫌気状態での酸産生によるpH変化によるものです。

2）成績の読み取りは下記の 2 つのパラメーターを考慮して行って下さい。

①増殖又は酸性化の程度

②出現の速さ

3）成績の読み取りは以下のとおり行って下さい。

①被検菌や反応型（発酵、酸化又は同化）によって培養時間を決めて下さい（24、48時間等）。

②各基質に対する反応（陽性（＋）、陰性（－）、判定不能（±））を成績記入用紙に記入して下さい。

■測定結果の判定法

使用した菌液接種用培地（アピ50CHB/CHEメディウム、アピ50CHL培地等）及び各基質に対する反応（陽性（＋）、陰性（－）、判定不能（？））をアピウェブに入力することにより、被験菌の同定を行います。

また、本品は以下の目的で使用することもできます。

1）被検菌に疫学的な生物型があるとき、疫学的に分類することができます。

2）微生物グループの分類学的な分析を行うことができます。

3）未知菌をグループ別に分類することができます。

■品質管理用菌株試験成績

Lactobacillus paracasei ssp paracasei NCFB 206 or ATCC BAA-52 (アピ50CHL培地使用)																																																		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
24	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	+	+	+	+	-	V	-	+	V	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	V	-	-					
48	-	-	-	-	+	-	-	-	-	+	+	+	+	-	-	+	+	+	-	+	+	+	+	+	V	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-	V	+	-	+	-	-	-	+	-	-		

<i>Bacillus polymyxa</i> (*)ATCC 43865 (アピ50CHB/CHEメディウム使用)																																																		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
24	-	+	-	-	+	+	+	-	-	V	+	+	+	+	-	V	-	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-			
48	-	+	-	-	+	+	+	-	-	+	+	+	+	-	V	-	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	V	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-		

(*)*Bacillus polymyxa*はアピ50CH及びアピ50CHB/CHEメディウムで試験した場合*Paenibacillus polymyxa*と判定されます。

<i>Klebsiella pneumoniae ssp pneumoniae</i> ATCC 35657 (アピ50CHB/CHEメディウム使用)																																																		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
24	-	+	-	-	+	+	-	+	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
48	-	+	-	V	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	V	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

ATCC： American Type Culture Collection, 10801 University Boulevard, Manassas, VA 20110-2209, USA.
NCFB： National Collection for Food Bacteria (=NCDO), Institute of Food Research,Reading Laboratory, Earley Gate, Reading RG6 6BZ, ENGLAND

■操作上の注意

- 1．測定試料の性質
- 1）菌液は、調製後ただちにプレートに接種して下さい。

2）調製後、長時間経過した菌液は使用しないで下さい。
- 2．試料の採取方法
- 1）患者から採取した検体及び培養物の取り扱いには、生物学的安全性の見地から十分に注意して下さい。

2）菌液作成時は汚染を避けて下さい。
- 3．成績の判定は、患者の臨床的背景、検体の由来、細菌の形態学的特徴等を考慮して、微生物学を熟知している人が行って下さい。
- 4．本品は、「使用方法」欄に記載された方法に従って使用して下さい。記載された「使用方法」及び「使用目的」以外に用いられた場合、誤った結果が得られることがあります。

■使用上又は取り扱い上の注意

- 1．一般的注意
- 1）使用するピペット及び白金耳等は滅菌済みのものを使用して下さい。

2）菌液は皮膚に付かないように注意し、万一皮膚に触れた場合は完全に消毒して下さい。

3）試薬が誤って皮膚に付いたり、目や口に入った場合は、水で十分に洗い流して下さい。必要に応じて医師の手当を受けて下さい。

4）本品の使用にあたっては、無菌的操作及び細菌の取り扱いに関する通常の注意事項を遵守して下さい。

5）使用期限を過ぎた製品は、使用しないで下さい。

6）キット中の容器、付属品等は他の目的に転用しないで下さい。
- 2．操作上の注意
- 1）口でのピペット操作はしないで下さい。

2）プレート及び試薬は冷蔵庫からとり出し、30分間放置してから使用して下さい。

3）接種菌液の濁度及び菌液の量、培養時間、培養温度などの培養条件を厳守して下さい。
- 3．廃棄
- 使用後のプレート、培養容器、ピペット、アンプルなどは滅菌するか、焼却又は処分する前に消毒液に浸してから廃棄して下さい。

- 貯蔵方法・使用期限
アピ 50 CHは2～8℃で保存して下さい。使用期限は、プレートのパッケージ及び製品の外箱のマークに記載してあります。
- 包装単位
アピ 50 CH..... 10回用
- 問い合わせ先
※※シスメックス株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー 8階
TEL 0120-022-328

シスメックス・バイオメリュー株式会社
※〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー 8階
TEL 03-6834-2666（代表）
- 製造販売業者の氏名または名称及び住所
シスメックス・バイオメリュー株式会社
※〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目2番2号 大崎セントラルタワー 8階

